みずほマーケット・トピック（2015 年 7 月 31 日）

週末版

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

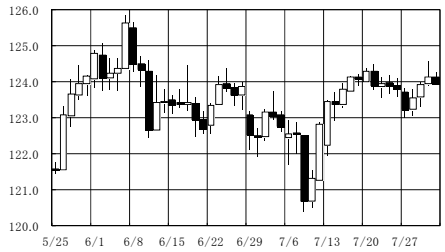
・今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 27 日に 123 円台後半でオープンしたドル/円相場は、日経平均株価の下落や米金利低下が重石となり123 円前半まで下落した。28 日は、前日からの上海株価の大幅下落にリスク回避姿勢が強まりドル/円は値を下げる場面が見られるも、実需の買いも散見される中、直ぐに 123 円台半ばまで値を戻した。29 日、注目された FOMC 声明文では利上げ時期を示唆するような文言はなく一旦は弱含んだものの、労働市場及び住宅市場に対する評価が上方修正されたことがタカ派的に捉えられ、ドル/円は 124 円台前半まで上昇。30 日にかけてもドル買い地合いが継続する中、発表された米 4～6 月期 GDP が市場予想を下回ったものの個人消費が好調だったことや1～3 月期が上方修正されたことが好感され、ドル/円は一時週高値となる124.58 円まで上昇した。本日にかけてのドル/円はやや下落するも、124 円近辺で底堅い推移が継続している。

・今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて下落する展開。週初 27 日に 1.09 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、リスクオフ地合いに伴うショートカバーや、独 7 月 IFO 景況感指数の良好な結果等を背景に、一時週高値となる 1.1129 まで値を上げた。28 日は、英 4～6 月期 GDP の市場予想通りの結果にユーロ/ポンドが下落すると、ユーロ/ドルも 1.10 台前半まで連れ安となった。その後は米 7 月消費者信頼感指数の悪化を受けたドル売りに、ユーロ/ドルは 1.10 台後半まで反発。29 日は、米金利上昇を受けたドル買いに 1.10 台前半まで弱含む場面も見られたが、FOMC において公表された声明文を受けたドル売りに、ユーロ/ドルは 1.10 台後半まで値を戻した。しかしその後は再びドル買い優勢地合いとなると、ユーロ/ドルは 1.09 台後半まで下落。30 日にかけても米 4～6 月期 GDP の結果を背景にドル買いが引き続き買われ、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0894 まで値を下げた。本日にかけてやや値を戻し、1.09 台前半で値動きに乏しい推移となっている。

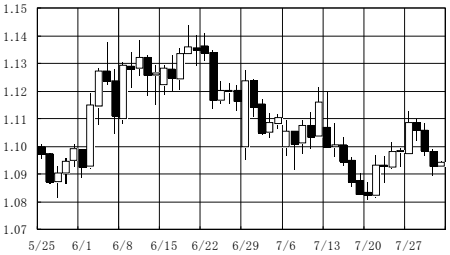
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		7/24(Fri)	7/27(Mon)	7/28(Tue)	7/29(Wed)	7/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	123.88	123.76	123.28	123.58	123.95
	High	124.09	123.84	123.79	124.03	124.58
	Low	123.60	123.01	123.07	123.33	123.88
	NY 17:00	123.79	123.24	123.57	123.95	124.14
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0987	1.0973	1.1089	1.1065	1.0981
	High	1.0996	1.1129	1.1099	1.1084	1.0989
	Low	1.0925	1.0969	1.1022	1.0967	1.0894
	NY 17:00	1.0986	1.1087	1.1060	1.0986	1.0931
ユーロ/円	東京9:00	136.13	135.79	136.69	136.76	136.12
	High	136.30	137.10	136.97	136.93	136.48
	Low	135.55	135.78	136.38	135.99	135.54
	NY 17:00	135.91	136.67	136.60	136.17	135.69
日経平均株価		20,544.53	20,350.10	20,328.89	20,302.91	20,522.83
TOPIX		1,655.86	1,637.90	1,629.46	1,633.94	1,647.21
NYダウ工業株30種平均		17,568.53	17,440.59	17,630.27	17,751.39	17,745.98
NASDAQ		5,088.63	5,039.78	5,089.21	5,111.73	5,128.79
日本10年債		0.41%	0.41%	0.41%	0.41%	0.41%
米国10年債		2.26%	2.22%	2.25%	2.29%	2.26%
原油価格（WTI）		48.14	47.39	47.98	48.79	48.52
金（NY）		1,086.00	1,096.90	1,096.70	1,093.30	1,088.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・米国では 7 日(金)に 7 月雇用統計が発表される。7 月雇用統計の調査週に当たる 7 月第 3 週(12 日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す 4 週移動平均で 27.9 万件と 6 月調査週の 27.7 万件とほぼ横ばいとなった。こうした先行指標を受けて、市場では 7 月の非農業部門雇用者数は前月比+21.8 万人と 6 月の同+22.3 万人と引き続き雇用回復の目安となる同+20 万人を上回る推移が続くと予想している。同指標の結果は、9 月の FOMC で FRB が利上げに踏み切るか否かの判断に影響を与えると考えられている。足許、ダドリーNY 連銀総裁、ブラード・セントルイス連銀総裁等一部 FRB メンバーが引き続き 9 月利上げを行う可能性を示唆しているものの、金利市場では 9 月利上げを予想する向きは非常に少ない。29 日に発表された FOMC 声明文では、労働市場の認識について小幅に上方修正され、9 月利上げの可能性は排除されなかったものの、引き続き、利上げは経済指標の結果次第であることが確認された。かかる状況下、今回の雇用統計が予想を上回る結果となれば、9 月利上げ期待がにわかに高まる可能性はある、一方で予想通りの結果となった場合は、今後の経済指標の結果を窺う展開が継続されるだろう。このほか、3 日(月)に 7 月 ISM 製造業景気指数、5 日(水)に 6 月貿易収支が発表される。ISM 製造業景気指数は直近 3 か月連続で改善を続けており、今回も改善基調を継続できるかに注目が集まっている。

・本邦では、6 日(木)から 7 日(金)にかけて日銀金融政策決定会合が開催され、現状維持となる見込みである。前回会合(7 月 14～15 日)で公表された、経済・物価情勢の展望(展望レポート)の中間評価では、成長率、物価見通しについて、小幅に引き下げられたものの、物価目標 2%の 2016 年度前半頃までの達成が視野に入るという見通しは維持された。今朝方(31 日)に発表された 6 月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合、コア CPI)は前年比+0.1%と 5 月(同+0.1%)対比伸び率は横ばいにとどまったものの、黒田総裁が「日本のインフレ率は向こう数か月で相当加速する」(22 日)と発言しているように、日銀は緩やかな物価回復シナリオを堅持しており、同結果を受けて政策スタンスを変えることはないと考えられる。

・欧州では、6 日(木)に英国中銀(BOE)の金融政策委員会が開催される。7 月 22 日に発表された前回会合議事要旨において、「複数のメンバーはインフレリスクの上昇を指摘」したことが発表され、またハト派よりとみられていたマイルズ委員(8 月退任予定)が「年末に向け物価は目標水準まで上昇する」と発言。更に、賃金伸び率は足許前年比+3.2%と利上げが議論された 2011 年 7 月の同+2.9%を凌いでいる等、利上げを期待させるような材料が目立っている。しかし、ホールデン委員、ハルデーン委員が直近、「利上げは急ぐべきではない」と発言する等慎重な意見も根強いほか、消費者物価指数(CPI)は依然として 2012 年からの下落トレンドを抜け切れていないことに鑑みると、今回の会合で BOE が利上げに踏み切る可能性は低いと予想する。

	本　　邦	海　　外
7 月 31 日(金)	――――――――――――――	・米 7 月シカゴ購買部協会景気指数 ・米 7 月ミシガン大学消費者マインド ・ユーロ圏 6 月失業率　・ユーロ圏 7 月消費者物価指数
8 月 3 日(月)	・7 月自動車販売台数	・米 6 月個人所得・消費　　・米 6 月建設支出 ・米 7 月 ISM 製造業景気指数
4 日(火)	・7 月マネタリーベース	・米 6 月製造業新規受注
5 日(水)	――――――――――――――	・米 6 月貿易収支 ・米 7 月 ISM 非製造業景気指数
6 日(木)	・日銀金融政策決定会合(～7 日) ・6 月景気動向指数(速報)	・独 6 月製造業受注
7 日(金)	――――――――――――――	・米 7 月雇用統計　　・米 6 月消費者信用残高 ・独 6 月鉱工業生産　・独 6 月貿易収支

【当面の主要行事日程(2015 年 8 月～)】

国際経済シンポジウム(8 月 27～29 日、ジャクソンホール)
欧州中銀理事会(9 月 3 日、10 月 22 日、12 月 3 日)
G20 財務相・中央銀行総裁会議(9 月 4～5 日、アンカラ)
日銀金融政策決定会合(9 月 14～15 日、10 月 6～7 日、10 月 30 日)
米 FOMC(9 月 16～17 日、10 月 27～28 日、12 月 15～16 日)

以　上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌　大輔（TEL：03-3242-7065）
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー（2015年8月）

月	火	水	木	金	週末
3 日本　自動車販売台数（7月） 米国　個人所得・消費（6月） 米国　建設支出（6月） 米国　ISM製造業景気指数（7月）	**4** 日本　マネタリーベース（7月） 米国　製造業新規受注（6月）	**5** 米国　貿易収支（6月） 米国　ISM非製造業景気指数（7月）	**6** 日本　日銀金融政策決定会合（～7日） 日本　景気動向指数（速報、6月） ドイツ　製造業受注（6月）	**7** 米国　雇用統計（7月） 米国　消費者信用残高（6月） ドイツ　鉱工業生産（6月） ドイツ　貿易収支（6月）	
10 日本　国際収支（6月） 日本　貸出・預金動向（7月） 日本　景気ウォッチャー調査（7月） 日本　企業倒産件数（7月） 日本　金融経済月報（8月）	**11** 日本　マネーストック（7月） 米国　労働生産性（速報、4～6月期） 米国　卸売売上高（6月） ドイツ　ZEW景況指数（8月）	**12** 日本　日銀金融政策決定会合議事要旨 （7月14～15日開催分） 日本　企業物価（7月） 日本　鉱工業生産（確報、6月） 日本　第三次産業活動指数（6月） 米国　財政収支（7月） ユーロ圏　鉱工業生産（6月）	**13** 日本　機械受注（6月） 米国　小売売上高（7月） 米国　企業在庫（6月）	**14** 米国　生産者物価（7月） 米国　鉱工業生産（7月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（8月） ユーロ圏　GDP(速報値、4～6月期) ユーロ圏　消費者物価（確報、7月） ドイツ　GDP(速報値、4～6月期)	
17 日本　GDP（1次速報、4～6月期） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（8月） ユーロ圏　貿易収支（6月）	**18** 米国　TICレポート（対内対外証券投資、6月） 米国　住宅着工（7月）	**19** 日本　貿易収支（7月） 日本　景気先行指数（確報、6月） 米国　消費者物価（7月） 米国　FOMC議事要旨（7月28～29日開催分） ユーロ圏　国際収支（6月）	**20** 米国　中古住宅販売（7月） 米国　景気先行指数（7月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（8月）	**21**	
24	**25** 米国　S&P/ケース・シラー住宅価格（6月） 米国　新築住宅販売（7月） 米国　消費者信頼感指数（8月） ドイツ　GDP(確報、4～6月期) ドイツ　IFO景況感指数（8月）	**26** 日本　企業向けサービス価格（7月） 米国　耐久財受注（7月）	**27** 米国　GDP(2次速報値、4～6月期) 米国 国際経済シンポジウム（～29日、ジャクソンホール）	**28** 日本　労働力調査（7月） 日本　家計調査（7月） 日本　全国消費者物価（7月） 日本　東京都区部消費者物価（8月） 日本　商業販売統計（7月） 米国　個人所得・消費（7月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、8月）	
31 日本　鉱工業生産（速報、7月） 日本　住宅着工（7月） 米国　シカゴPMI（8月） ユーロ圏　消費者物価（速報、8月） ユーロ圏　失業率（6月）					

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー（2015年9月）

月	火	水	木	金	週末
	1 日本　法人企業統計（4～6月期） 日本　自動車販売台数（8月） 米国　建設支出（7月） 米国　ISM製造業景気指数（8月） ユーロ圏　失業率（7月）	**2** 日本　マネタリーベース（8月） 米国　労働生産性（確報、4～6月期） 米国　製造業新規受注（7月） 米国　ベージュブック	**3** ユーロ圏　ECB理事会 米国　貿易収支（7月） 米国　ISM非製造業景気指数（8月）	**4** 米国　雇用統計（8月） ユーロ圏　GDP(4～6月期、改定値) ドイツ　製造業受注（7月） アンカラ（トルコ）　G20財務相・中央銀行総裁会議（～5日）	
7 ドイツ　鉱工業生産（7月）	**8** 日本　国際収支（7月） 日本　GDP(4～6月期、確報) 日本　貸出・預金動向（8月） 日本　景気ウォッチャー調査（8月） 日本　*企業倒産件数（8月） 米国　消費者信用残高（7月） ドイツ　貿易収支（7月）	**9** 日本　マネーストック（8月）	**10** 日本　国内企業物価（8月） 米国　卸売売上高（7月）	**11** 日本　景気予測調査（7～9月期） 米国　生産者物価（8月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、9月） 米国　財政収支（8月）	
14 日本　日銀金融政策決定会合（～15日） ユーロ圏　鉱工業生産（7月）	**15** 米国　小売売上高（8月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（9月） 米国　鉱工業生産（8月） 米国　企業在庫（7月） ユーロ圏　貿易収支（7月） ドイツ　ZEW景況指数(9月)	**16** 日本　金融経済月報（9月） 米国　FOMC(～17日) 米国　消費者物価（8月） ユーロ圏　消費者物価（確報、8月）	**17** 日本　貿易収支（8月） 米国　TICレポート(対内対外証券投資、7月） 米国　経常収支（4～6月期） 米国　住宅着工（8月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（9月）	**18** 日本　日銀金融政策決定会合議事要旨（8月6～7日開催分） 米国　景気先行指数（8月） ユーロ圏　国際収支（7月）	
21 日本　敬老の日 米国　中古住宅販売（8月）	**22** 日本　国民の休日	**23** 日本　秋分の日	**24** 米国　耐久財受注（8月） 米国　新築住宅販売（8月） ドイツ　IFO企業景況感指数（9月）	**25** 日本　全国消費者物価（8月） 日本　東京都区部消費者物価（9月） 日本　企業向けサービス価格 米国　GDP(3次速報、4～6月期) 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、9月）	
28 米国　個人所得・消費（8月）	**29** 米国　S&P/ケース・シラー住宅価格（7月） 米国　消費者信頼感指数（9月）	**30** 日本　商業販売統計（8月） 日本　鉱工業生産（8月） 日本　住宅着工（8月） 米国　シカゴPMI(9月) ユーロ圏　失業率（8月） ユーロ圏　消費者物価（速報、9月）			

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2015年6月分）
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状や展望について～購買力平価（PPP）や実質実効為替相場（REER）からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況（15年3月末）から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版（拡大資産購入プログラム（APP）の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～）
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳（15年3月末時点）
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について～デフォルトはメインシナリオへ～
2015年6月26日	週末版(2015年上半期を終えて～素直な政策金利相場だった上半期～)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて～実感はあるか？～
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は？
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか？
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて～舞台は首脳級へ引き継ぎ～)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて（6月16～17日開催分）
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資（TIC）レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢～考え得るシナリオや離脱後の相場～
2015年6月12日	週末版（黒田総裁発言の解釈～実質実効為替相場を考える～）
2015年6月10日	ユーロ圏1～3月期GDP（2次推計値）について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認～4月国際収支統計を受けて～
2015年6月8日	本当にFRBの早期利上げは可能になったのか？
2015年6月5日	週末版（ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退：その②～）
2015年6月4日	ECB理事会を終えて～ボラティリティ許容発言の意図～
2015年6月3日	2年ぶりの実質賃金上昇～忍び寄る交易損失～
2015年6月2日	ECB理事会プレビュー～「完全なる実施」の強調～
2015年6月1日	G7を終えて～ドル高、交差する三極の思惑～
2015年5月29日	週末版
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2015 年4月分）
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因～従前の想定は変わらず～
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨（4月15～16日開催分）について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー～証券投資動向から占うユーロ相場～)
2015年5月21日	クーレ発言の真意とQEの実施状況について
2015年5月20日	本邦1～3月期GDPについて～消費＆在庫が下支え～
2015年5月19日	足許のギリシャ情勢について～6月返済も危ういか～
2015年5月18日	ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退～
2015年5月15日	当面のギリシャ情勢の整理～何度目かの佳境～
2015年5月14日	ユーロ圏1～3月期GDP（一次推計値）について
2015年5月13日	本邦3月国際収支統計と円相場見通しについて
2015年5月12日	本邦の雇用・賃金情勢について～完全雇用到達後の世界～
2015年5月11日	英国総選挙と今後についての論点整理
2015年5月8日	QQEの効果検証～「金利への回帰」の布石か～
2015年5月7日	欧州委員会春季経済予測について
2015年5月1日	週末版(日銀政策決定会合を終えて～勝負の秋～)
2015年4月30日	米1～3 月期GDP 及びFOMC について
2015年4月28日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？
2015年4月27日	最近のギリシャ情勢に関する整理
2015年4月24日	週末版(日銀政策決定会合プレビューその②～参院財政金融委員会での総裁発言を受けて～)
2015年4月23日	日銀政策決定会合プレビュー
2015年4月22日	本邦3 月貿易統計～黒字転化をどう評価するか～
2015年4月20日	重要な論点は「いつやるか」から「何回できるか」
2015年4月17日	週末版(ECB、PSPP の残高状況に関して～「12%」から何を読み取るか？～)
2015年4月16日	ECB 理事会を終えて～与信改善を強調～
2015年4月15日	通貨政策の変節と日銀～浜田参与発言を受けて～
2015年4月14日	ECB 理事会プレビュー～早くも聞こえ始めたtapering～
2015年4月13日	米為替政策報告書について～ドル高容認の継続？～
2015年4月10日	週末版
2015年4月7日	量的・質的金融緩和（QQE）導入から2年を受けて
2015年4月6日	米3 月雇用統計～6 月利上げの芽は潰えたか～
2015年4月3日	週末版(ECB理事会議事要旨（3月5日開催分）～“prudent optimism（節度ある楽観）”の先行きは～」)
2015年4月2日	日銀短観3 月調査～「需要不足」から「供給不足」へ～
2015年4月1日	外貨準備構成通貨の内訳（14年12月末時点）
2015年3月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2015 年2 月分）
2015年3月27日	週末版
2015年3月26日	本邦対内・対外証券投資の動向について
2015年3月25日	本邦家計部門の金融資産の現状について
2015年3月24日	円相場の基礎的需給環境の整理
2015年3月23日	ユーロ圏1月国際収支統計～対内証券投資が回復～
2015年3月20日	週末版(第3 回ターゲット型長期流動性供給（TLTRO）を終えて～ユーロ圏の与信機能に復活の兆し？～)
2015年3月19日	FOMCを終えて（3月17～18日開催分）
2015年3月18日	ECB、量的緩和政策（QE）に係るQ&A
2015年3月17日	ECBの国債・政府機関債購入額（第1週目）を受けて
2015年3月16日	ユーロ相場の水準感～佳境を迎えるユーロ売り～
2015年3月13日	週末版(米国はどこまでユーロ安を許容するのか～試される「強いドルは国益」～)
2015年3月12日	日銀の追加緩和はあるのか～払拭しきれない可能性～
2015年3月11日	3月レパトリ円高説について
2015年3月10日	なぜ為替と株価の相関が低下しているのか？
2015年3月9日	ECB理事会を終えて～後ろめたさを見せたドラギ総裁～
2015年3月6日	週末版
2015年2月27日	週末版
2015年2月26日	為替証拠金取引で外貨買いポジションが急増
2015年2月25日	イエレン議会証言を終えて～年央利上げに言質与えず～